

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2775002542		
法人名	社会福祉法人 由寿会		
事業所名	グループホーム香寿庵		
所在地	東大阪市稲田新町1丁目10番1号		
自己評価作成日	平成 24年 2月 15日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 20日

ご利用者様が自宅で生活をされておられた延長で香寿庵でも生活をして頂き、家事、特に食事を中心とした近所への買い物、食材を洗ったり刻んで調理を行い、仕上げで配膳をし、一人でなく多くの人数で食事をする楽しさまた、外食や出勤・場所を変えての食事等で喜びを感じて頂いています。併設のデイサービス・特別養護老人ホームの行事などにも参加し交流の場として楽しまれています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijisip/infomationPublic.do?JCD=2775002542&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijisip/infomationPublic.do?JCD=2775002542&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理事長は医師として「福祉過疎の地域に終の棲家として、高齢になっても環境を変えることなく過ごせる場を作りたい」との思いから特別養護老人ホームを創設しました。併設するグループホームも認知症の方が地域での暮らしを支える拠点として開設しました。建物外壁のピンクカラーは、地域の福祉を必要とする人々の灯台として、福祉の相談窓口として機能するよう、分かりやすく目印となるようにとの思いが込められています。職員のケアに対する意識は高く、できることを引き出す環境作り、自由な感情の表出など、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるように、一人ひとりが主人公であるとの思いで日々関わっています。職員と利用者、利用者同士の関係が構築できており、フロアには笑い声が響き、楽しくおしゃべりを楽しんでいます。職員は、居室の掃除、食事が終われば食器を洗い、歯磨き、洗濯物をたたむなどの利用者の1日の流れを大切にしながら、体操や外出など五感を刺激する取り組みのなかで、生活を共に楽しんでいます。また、さまざまな行事「学ぼう会」「食事会」「地域のパレード」「祭り」などへ参加し、地域との交流を図っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 3月 24日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香寿庵独自の目標を作成しており、c w会議でも話をしている。いつでも見られるようフロアに掲示し、理念を共有している。	法人理念を基に「入居者にとっての家であり、各々“生活し暮らす主人公である”との基本認識のもと入居者一人ひとりがその人らしいあたりまえの生活を送れるように暮らしの実現を目指します」をグループホーム独自の運営目標として掲げています。また、目標実現に向けて、6つの項目を重要事項説明書に謳っています。管理者、職員は、できることを引き出し、その人らしいあたりまえの暮らしを大切にしながら、実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域開催の祭り・盆踊りの参加・毎週月曜日に公園や道路の清掃・毎日の買い物を通して近所のお店との交流や施設開催の秋祭り・毎月の学ぼう会に地域の人々やご利用者様と共に参加し交流している。	近隣保育園との交流会やふれあいパレードへの参加、桃の花まつり、歩行者天国など、地域の様々な行事に参加しています。職員は隣接する公園の清掃を毎週行っており、地域の方に笑顔で挨拶をすることを心がけています。また、近隣の商店街やスーパーへ食材の買い物に出かけています。利用者が雑巾を縫い、地域の保育園や小学校へプレゼントをするなど、地域交流が広がっています。	近隣住民だった利用者が多いことから、さらなるステップとして、法人内施設との関わりだけでなく、馴染みの喫茶店や商店街への買い物、近隣への外食など、利用者一人ひとりが地域と繋がりながら暮らし続けられるように、支援されてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の事を説明させて頂き、少しでも地域に出て行く機会を作る努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の説明をし、ご利用者様の生活上のリスクを伝えて、色々な意見を出して頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、2カ月に1回開催しています。老人会、民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者、家族、法人の理事長、職員で構成されています。運営推進会議では、グループホームの現状や課題が報告されています。ホームを利用することで自信を持って生活ができるようになる事例や、医療機関との調整の難しさなどの報告は、グループホームの意義や課題を考える機会となり、地域住民の認知症の理解に繋がり、地域で認知症の人の暮らしを支える一役を担っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括の職員に運営推進会議に参加して頂いているが、会議の内容を記録し市の担当者に提出している。	グループホームの状況を伝えるために、運営推進会議の議事録を毎回市へ提出しています。また、市が開催する研修会やグループホーム部会へ積極的に参加をしています。病院受診が必要な事故が発生した場合は、市へ迅速に報告をしています。またキャラバンメイトによる、認知症サポーターの育成にも携わっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人では身体拘束廃止宣言をしており、身体拘束委員を発足させ、拘束の事例がなくても話し合いを行い職員も理解している。香寿庵での課題として、鍵は防犯の関係上施錠しているが、一日の内数時間鍵をあけられるよう検討中	何が拘束にあたるのか、身体拘束についての勉強会を実施し、共通認識に努めています。利用者の言葉を遮ることなく傾聴する、丁寧な言葉をかけるなど、職員同士がお互い気をつけるように心がけています。1階玄関から階段を上がり、2階がグループホームとなっています。1階玄関は、安全面から施錠していますが、2階から1階への階段の扉は、職員体制が整っている時には開錠しています。利用者が1階玄関の方に行く様子を察知した際は、さりげなく声をかけ、一緒に出かけています。	防犯の関係上、施錠をしていますが、利用者の「自由な暮らし」「身体拘束の弊害」について更に話し合い、今後も検討を行うことが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設実施の研修に参加し虐待を見逃さないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、ご家族様に話をし、成年後見制度を利用されたご家族様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の時、また改定の際は十分な説明を行い少しでも不安のない生活を送って頂けるように図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置やご利用者様・ご家族様との会話の中で色々な意見を聞いて、cw会議や運営推進会議で反映させている。	『ピーちゃん便り』を発行し、利用者の様子を家族の方に伝えています。さまざまな行事へ家族の参加を求め、要望や意見を出せるよう関係構築に努めています。半年に一回はケアマネジャーが家族と面談を行い、介護計画の作成と併せて、様々な苦情や要望、希望を聞くようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はcw会議にて、直接職員の意見や提案を聞くことに努め反映できるように努めている。また代表者は役職者会議などを通して、参加した職員の意見などを聞く機会を設け反映している。	管理者は、全体会議で発言しにくい職員から事前に意見を聞き取り、代弁することもあります。また、個別面談を行い、職員の声を聞く機会を設けています。法人全体として人事に関する希望調査が行われています。利用者の入居については、管理者のみで決めるのではなく、情報提供を行い、話し合いで決定しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、職員のやりがいにつながるよう職員の努力や実績を評価できる機会を設けたり、アンケートでの調査や各会議での職員の意見を吸い上げる機会を設け、職員が意欲を持って働けるような環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会や大阪認知症グループホーム協議会への加入にて、年間の施設内研修計画も立て、外部研修にも参加行い、各資格を取得できるよう、セミナー等の案内をお知らせすることで、働きながらトレーニングできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	21年度より、地域密サービスの東大阪市介護保険事業者連絡会にも参加し、同業者との交流を深めながらサービスの質の向上に取り組んでいる。相互訪問の活動を予定していたが実績に繋がらず、今後検討を行う。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたご利用者様は環境の変化に対応出来なくて不安な様子が現れたら、声掛けや側に寄り添い話の傾聴等を行い安心して頂くよう努めている、またアセスメントシートに記入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前と入所時色々な説明を行っているが、聞いていないと訴えられるご家族様もおられ、信頼関係が出来るまで時間がかかるが根気よく説明を行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の様子観察やご家族様の話しの傾聴等で必要としている支援を見極められるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に調理・買い物・レクの参加を通して一緒に過ごし、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、一緒に支えて行きましようかと伝え、ご利用者様の受診に行かせて下さり、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や親せきの面会も多く、遠方のご利用者様もおられ、一緒に行けないが、ご家族様が外出に連れて行って下さる(馴染みの美容室・食事・受診等)	入居前からの生活環境を把握し、個別に記録を残し、職員間で情報を共有しています。家族の協力を得ながら、一人ひとりの希望に応じて、馴染みの場所や商店街への買い物に出かけています。友人や家族の面会も自由で、ホームに来訪し、ゆっくり利用者と一緒に過ごしています。また、犬の散歩のついでにホームに立ち寄る家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の価値観の違いで衝突(口論)多いが、職員が中に入り関わりを持つ事で、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご利用者様の面会に行かせて頂きご家族様と話し合い、退院後の不安の解消につながるように、他のサービスを伝えフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に安心した生活を送って頂くには、出来る事や出来ない事の把握また、話の中での希望や思いをさぐって感じ取り、cw会議にて検討している。	センター方式のシートを活用し、事業所独自のシートを作成しています。一人ひとりの思いや暮らし方の希望を家族や利用者に記録してもらい、年代別に情報を整理し、生活歴を記録に残しています。日々の記録の中にも、「私の思いや支援してほしいこと」を記載する欄を設け、利用者の発言や思いを記録に残しています。また、日常ケアの中で、できるだけ利用者の声を聞くようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様の話の傾聴で把握して行き、センター方式に記入を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記入して行き、一人ひとりの心身の状態を見極め総合的に把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者様の近況報告を面会時や電話で伝え、ケアプラン変更・更新時にご家族様も交え職員共にケアの在り方について話し合っている。また医療的ケアについては、DRも参加で現状に即した介護計画を作成できるよう努力している。</p>	<p>ケアマネジャーは家族の協力を得て、利用者一人ひとりの暮らしの状況を丁寧に把握しています。介護計画は6ヶ月に1回以上、家族や利用者話し合いながら作成し、同意を得ています。入居直後の利用者には、暫定で計画を作成し、1ヵ月後に生活の様子や状況を判断して、再度計画の見直しを行っています。できることを情報として得ながら支援をしています。センター方式のシートを一部活用し、炊事、洗濯、掃除、買物、好きなこと、コミュニケーション、趣味など詳細に情報を整理し、日々のケアに繋いでいます。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>センター方式を取り入れ日々の様子を記入また、D-5シートに気づきを書く事により、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>身体的低下や認知症が進まれても少しでも香寿庵で生活を希望されておられるご家族様のニーズに添えるようサービスを考え取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店での買い物で知り合いの方と話をしたりまた、家庭菜園でとれた野菜を頂くこともあり、地域で楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に受診されていたかかりつけ医に受診されておられるご利用者様もおられ遠方でご家族様も忙しい方や緊急時には特養併設の診療所に週4回のDR受診・往診が受けられ、看護師も日中勤務しており適切な医療が受けられる。	連携医療機関はありますが、家族や利用者の要望に応じて、受診できるよう支援しています。受診は家族の付き添いを基本としていますが、家族が困難な場合は職員で対応しています。また、投薬や治療のために利用者の状況把握が必要な場合には、職員が医療機関と連携を図りながら個別に対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や様子観察で体調の変化に気づき、診療所の看護師と相談を行いながら適切な看護を受けられるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、面会や電話を通じて病院関係者・ご家族様と情報交換関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族様と話し合いを行い意向を聞きながらケアをしているが、香寿庵の生活がご利用者様にとって苦痛と思われたら、他の選択肢として特養の申込みも可能である事を伝え、その後特養入所にて退所になる場合もある。	重度化や終末期の対応は、居室が2階であり、階段昇降が必要なことや浴室などの環境面から難しい状況です。入居時には事業所の方針を説明し、身体介護が必要になった場合など、必要に応じて法人内の特別養護老人ホームや他の機関に繋いでいます。入居された利用者には、可能な範囲で事業所での生活が継続できるように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊変事のマニュアルも備えており、cw会議などでも話し合いました、法人の勉強会にも参加している。消防署主催の救命救急の講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養の職員と共に避難訓練に定期的に参加をしているが、地域との協力体制まで取り組めていないが、災害マニュアルを備えている。	消防署の指導を受け、年2回以上避難訓練を実施しています。ホーム内には消火器やスプリンクラーが設置され、災害発生時のマニュアル、連絡体制も整っています。2階がグループホームの居室ですが、緊急時には隣接する特養職員の応援や特養への避難が可能な環境となっています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	CW会議にて、ご利用者の尊厳・言葉づかいに気を付けるよう何度も話し合っただ対応に気を付けている。	日常ケアの場面では、利用者の尊厳や誇りを守るために「否定しないケア」「気持ちに寄り添うケア」「自己選択」を大切にしています。管理者は、さらに職員の認知症ケアの向上を図るため、学習の機会を増やしたいと考えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手伝いやレクの参加・モーニングのメニューの選択で食べたい物を決めて頂いているまた、自己決定が難しいご利用者様には話の傾聴などで希望を察するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日ゆっくりとご利用者のペースに合わせた支援をしているが、行事等で職員の都合で動いて頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様はご自分で服を選んでおられ、コーディネートがおかしい場合は尊厳を傷つけないように着替えて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日買い物・調理・配膳・片付けを一緒にする事で張り合いのある生活を送られまた、毎食職員とお話を行いながら一緒に食事を楽しまれています。	特養の栄養士が栄養管理面から献立を作成しています。食材の購入、調理、片付けまで毎食利用者が関わり職員と一緒に食事作りの過程を楽しんでいます。食事の時間には、調理のにおいが、ホーム内にたちこめ食欲をそそります。買い物は利用者が生き生きしながら旬の野菜を選び、食材にふれる生活の楽しみの一つとなっています。また、隣接施設の喫茶で公園を眺めながらのモーニング、庭でのランチ、外食など、食の楽しみに繋がる支援をしています。管理者・職員は、食事が五感を刺激する重要な機会であると理解しています。そのうえで、今後の課題として生活全体から楽しみへの支援について、調理以外の検討もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士作成の献立を基に調理を行い、毎食後食べた量・水分量のチェックを行い、一人ひとり状態を考えて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後・夕食後に口腔ケアをしており、出来ないご利用者様には職員が介助を行い、異常があれば歯科受診をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して行きご利用者様の排泄パターンを掴み誘導や声掛けを行っている。cw会議にてご利用者様に合ったリハビリパンツ・パットの見直しの話し合いをしている。	排泄パターンを把握することで、利用者一人ひとりに応じたリハビリパンツ・パッドなどを使用しています。また、昼のみでなく、夜間もトイレへの時間誘導を行い、自立に向けた支援をしています。排泄時には、扉の外でタイミングをみて声をかけるなど、羞恥心に配慮した支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各日のヨーグルト・ヤクルトの提供や毎朝体操をして行き、体を動かす事により、予防に取り組んでいる。便が出ないご利用者様は下剤を服用されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴の施行で希望を聞き入浴して頂いている。入浴拒否のご利用者様には拒否された場合は場面を変えて再び声掛けを行っている。	利用者の希望や生活習慣に応じて対応しています。最低でも週に2～3回の入浴を確保しています。入浴を好まない利用者については、1日の気分やタイミング図りながら、無理強いすることなく根気よく声かけを行っています。気分を変えて入浴を楽しむために、特養の大浴場で入浴をしたり、同法人施設が遠方にあり、温泉気分を楽しむためにその施設まで出かける予定をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の声掛けを行い、安心して休んで頂けるよう支援を行い、不安で眠れないご利用者様には話を傾聴行い安心して眠れるよう支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスやセンター方式に服薬されておられる薬を記入して、服薬の誤りがないように日付けを記入、新しい薬を服薬して頂く時は症状の変化を確認するように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様から趣味等を聞かせて頂き折り紙・塗り絵・書き取り・裁縫等をご利用者に合った楽しみ事をして頂きまた、不穏・不安になられたご利用者様には散歩に行くなどの気分転換の支援をしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何か気になり帰宅願望のご利用者様には一緒に散歩や買い物に行きました、ご家族様との墓参り・食事等、香寿庵ではお花見・外食会・特養のテラス利用で緑を感じながらの昼食、お弁当風の食事を作って食べ楽しまれています。	毎日近隣のスーパーへ、数人の利用者と食材の買い出しに出かけています。冬場はあまり外出する機会がありませんが、月1回の外食、隣接特養で開催される行事、喫茶、学ぼう会など、さまざまな取り組みに参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っておられるご利用者様に一緒に買い物に行って頂き、食べたい物を購入され支払をして頂くよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご利用者様の中に携帯を持っておられるご利用者様もおり、他の方は希望されたり、用事のある時はご家族様と話をする機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに小物を置くことにより家庭的な雰囲気になるようにしているが、特養と併設しており館内放送が聞こえる為、混乱されないように気をつけ声掛けを行い少しでも居心地よく過ごせるような工夫をしている。	1階の玄関から階段を上がると、ガラス張りのアーチ型になった食堂兼リビングに繋がっています。明るく落ち着いた色調の木目をベースにしたホームは、リビングの天井が高く、間接照明を用い、廊下や空間も広くゆったりした設えです。食卓テーブル以外にもテレビ前にソファを置き、利用者が自由にくつろげる空間を設けています。リビングから居室に続く広い廊下の数カ所にソファがあり、利用者数名がおしゃべりを楽しんでいました。壁には、利用者の外出時の写真や作品、絵画が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の4ヶ所にソファを置くなど一人になれる空間を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されておられたタンス・イス・写真を置かれ居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室は、木目の家具に同系色のベッド、洗面台が備え付けられており、室内の色調も落ち着いた雰囲気を出しています。利用者の生活スタイルに合わせて、畳の生活を好む人にはカーペットを敷き、座卓での生活ができるように工夫しています。仏壇やタンス、テレビ、椅子やテーブル、可能な範囲で自宅から使い慣れたものを持参しています。室内には、雑誌や思い出のアルバム、ぬいぐるみ、作品や写真などを飾り、居室を開けると、利用者一人ひとりの部屋と分かる品々が持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	香寿庵内で自立した生活を送れるよう手すり等を設置して安全に使い勝手の良い工夫をしている。一時的に車イス使用となった場合併設の特養のエレベーターを使用し、出来るだけ長く自立した生活を送れるよう支援している。		